
イスラエルの回復のために祈りましょう

イスラエル本土のユダヤ人

人口: 4,600,000 人

☆エルサレム、ベツレヘム、エリコ……これらの場所は、どれほど豊かな歴史を持っていることであろうか。世界の三大宗教にとって、この地がどんなに重要かは言うまでもない。もし、この地の石が言葉を話すことができるなら、どんな話をしてくれるのだろうか。民族の父祖や預言者、王と女王、兵士と羊飼いについて語ってくれるのだろうか。

☆イスラエルは、独特な地理、歴史と運命のゆえに、何千年もの間、侵略戦争が絶えなかった。その結果は、繁栄する王国へと導く奇跡的な勝利であり、また見るに耐えない敗北、荒廃、捕囚であった。これらのことは、同様にイスラエルで起こってきたことである。

☆イエス・キリストの時代、ローマ帝国はヨーロッパと中東のほとんどの地域を支配し、エルサレムもその支配下にあった。紀元 70 年、ローマ帝国はエルサレムとその神殿を滅ぼした。その後、何世紀にもわたり、ユダヤ人がエルサレムに住むのはもちろんのこと、城内に入ることすら許されない時期もしばしばあった。1096 年、名ばかりのクリスチャンである十字軍がヨーロッパから出征し、エルサレムを奪い取ろうとした。1099 年、十字軍の一団はエルサレムにやって来て、3万5千人ものイスラム教徒と6千人ものユダヤ人の命を奪った。またユダヤ人はエルサレムから追放され、都の地を踏むことを禁止されてしまったのである。

☆しかし、ユダヤ人は 19 世紀になるまで、少数ながらもこの地に存在し続け、今度は世界各地のユダヤ人がパレスチナへ移住し始めた。この地での生活はあまりにも苛酷なため、もとの所に戻る人もいたが、ほかの国でもユダヤ人への待遇はさらに良くなかったので、イスラエルにいようと考える人は次第に増えていった。そして 1850 年代半ばになると、再びユダヤ人は、エルサレムの人口のうちで大きな割合を占めるようになった。このようなことは数百年ぶりのことだった。第一次世界大戦が起こった 1914 年までは、10 万人のユダヤ人がパレスチナに住んでおり、終戦時には、イギリスがパレスチナを含めた中東の多くの地域を支配していた。最初のころは、イギリスもユダヤ人のパレスチナへの移住を勧めたが、その後、移住の道を閉ざしてしまった。ヒトラーのホロコーストの時は、パレスチナはほかの多くの国と同様、逃亡するユダヤ人移民に門を堅く閉ざしていた。終戦後もイギリスは国境を閉鎖し続けようとしたが、虐殺を免れた8万5千人のユダヤ人が、このパレスチナの地になだれ込むようにやって来たのである。

☆1948 年5月 14 日、イスラエルが建国を宣言した途端、周りの国がすぐに侵略してきた。イスラエルは建国以来の 50 年間で、国の存亡を懸けた五つの戦争を戦い抜いてきた。イスラエルでは、国防は生活の大きな部分を占めており、国民のほとんどは、男女を問わず 18 歳になると兵役に就く。男性は一生の間、予備軍に入る時期が長く、平和な時でも、年に何カ月も軍隊生活を送ることがある。

☆イスラエルは対比する文化を持つ国家である。アラブとユダヤ文化、セファルディ系とアッシュケナジ系の文化、信仰深いユダヤ人と世俗的なユダヤ人、新しい移民と古くからの永住者、古代からの歴史と最新の技術が混在している。90 年代には、70 万人以上のロシア系ユダヤ人がイスラエルに移住してきており、彼らとの共存が、イスラエル社会における大きな課題となっている。しかし、

そういったことにもかかわらず、イスラエルの経済は好景気であり、西側諸国の一般的な生活水準に達している。

☆よく、この国で話題になるのは「平和のために土地をあきらめるべきか」ということである。イツハク・ラビン首相は、この問題で95年に暗殺され、いまだ問題の解決には至っていない。

祈りの課題

☆彼らの戦争への恐怖が、平和の神への信頼に変わるように。

☆アラブ人とユダヤ人の間に、そして宗教的なユダヤ人と世俗的なユダヤ人の間にも一致があるように。イスラエルにおいて、正統派ユダヤ教からの束縛がなくなるように。

☆傲慢さを生み出すパリサイ人の霊に立ち向かって。特に律法主義的な信仰を持つ人のために。

☆この国にいる信徒のために。特にメシアニック・コングリゲーションのメンバーが、信仰に堅く立つように。彼らが大胆さをもって証しをし、迫害にも立ち向かうことができるように。

☆イスラエルのユダヤ人が心を開いて福音を聞き入れるように。彼らが自分のメシアであるイエシュアを見だし、そして神のご計画と召しを成し遂げ、諸国の光となるように。

☆うぬぼれ、横柄さ、かたくなさから解放されるように。

☆エルサレムの平和のために。

